

ユースとジェンダーの視点から考える「ウェルビーイングと環境」

アンケート結果

開催日時:9 月 24 日(木)18:30～20:00

参加者 講師含み 26 名 アンケート回答者 12 名

1. 年代をお伺いします。

60 代:3名 70 代:4名 80 歳以上:5名

2. 調査・研究会委員ですか

はい:8名 いいえ:4名

3. 勉強会の内容で印象に残ったことはどんなことですか？

*地球の環境が激変していること

*訴訟を起こしたユースたちの動画の生の声

*若者の気候訴訟の取り組みと熱意

*日本でも公害・環境訴訟で若者が立ち上がっていること

*気候訴訟は、社会的弱者の声を反映している、人権問題でもある

*現在、悪化し続ける気候変動に立ち向かっている若者が居ることに心打たれました。日本の教育は「自分で考えて行動せよ」と学校では教えますが、社会に出ると、協調、効率など経済優先になり、思うようには出来ません。しかし、それを乗り越えようとしている若者が、日本にも居ることを知り心強く思いました。

*長期間にわたって、さまざまな活動が継続されてきたことがわかった。

*ウェールズの取り組み

*ウェールズ法について、ウェールズ法の影響、気候訴訟について、若者世代の環境についての意識がよくわかる講師のお話を聞けてとても勉強になりました。若者世代の声はなかなかネット記事では見つけられないため、貴重な機会をいただきありがとうございました。国連や国際機関の勧告に対する政府の対応がどの分野でも同じであり、国際法の順守も念頭にないことがよくわかりました。省庁間の力関係は予想どおりで、現状や世界の動向とは関係なく内向きの論理で動いていること、若者世代を含めて人権教育が全くされていない特殊な国であることがよくわかりました。第6次環境基本計画には全く注意を払っていなかったことを反省しています。気候正義について初めて理解できたこと、日本での訴訟の難しさなど、知らないことだらけでしたので、とても勉強になりました。教育の重要性を改めて感じることができました。この勉強会が 10 月のシンポジウムにうまく結びつくことを期待しています

*日本は社会全体が「人権意識」が低い。人権に関する教育を受けてきていない。

*自分も含め日本人の気候変動に関する問題意識の低さと、教育の重要性

*日本の場合、為政者たちをはじめ人々が環境は人権の問題であると捉えることがなかなかできないということ。一方、ヨーロッパでは地方裁判所から案件として上げて審理する動きがあるということ。また、日本は未だ経済の指標をGDPのような成長本位に考えており、ウェルビーイングの定義も指標も、旧態依然としており、将来世代を含め全ての人々の幸せや命を守るためのものとなっていないことを直視するべきと理解できたこと。

4. 講師の一原雅子さんに一言メッセージをお願いします。

*今起きている気候「不」正義…最初の世界地図は衝撃的でした。

*気候正義、気候訴訟、ウェールズ法、ウェールズ法のSDGsを含む国連関係の動向への寄与、若者世代の意識や無関心、教育の重要さまで、広い範囲のお話をとても分かりやすく説明していただき、誠にありがとうございました。

*熱心で広い視野にたった講演で、学ぶところが多いでした。Wales法のBasic Incomeにも興味を持ちました。

*資料を読み、難しい解説に思いましたが、お話を伺って、現在私たちが直面している 大事なテーマだと分かりました。具体的なご活動もされている様なお話を最後の方で聞き、いろいろな事例をもっとお聴きしたかったと思いました。

*これまでも JAUW の大きな催しで、本テーマに関する新しく且つ確かな考え方について、献身的に講じていただき、お礼のしようもないと感謝しておりましたが、今回はこれまでのご発表を大変分かりやすく復習していただき、更に明確な意思をもって展望を示していただき、非常に力づけられました。ご自身のお力を安定的に今とこれからの社会と世界に更にお役立ていただくために頑張られますようお祈り、応援しております。

*今回初めてご講演を拝聴し、環境とウェルビーイングとの関係、気候変動が地球に及ぼす影響と、各国の取り組み、次世代の取り組みなど知ることができました。現地に足を運んでの調査を踏まえた研究と見識に心から敬意を表します。この分野の研究成果が広く受け入れられて人々の生活に環境とウェルビーイングの概念が定着し、気候変動への意識の高まりにつながればと願っています。

*災害が続く今年の 9 月という時点で、その根本を問い直すためのお話を伺え、大変に参考になりました。

*地道な研究と若い方へのリーダー的役割ありがとうございます。

*いつも JAUW に多大なお力添えをいただき、心から感謝いたします。若手の会員さんのリーダーとして、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

*気候変動の問題について熱心に取り組まれ若い方々の訴訟に力強いご指導をされていらっしゃることに敬意を表します。一步一步の活動かもしれませんが絶対に将来のために大切な一歩だと思います。大学女性協会のような組織がしっかり応援できる方法があれば教えていただき、お力になれば良いのに思います。

*若者たちを一原さんはどのようにサポートしておいでですか？なにかよいヒントが得られればとおもいました。

*これからも頑張してほしいと思います。応援しています。

5.「ウェルビーイングと環境」についてユースとジェンダーの視点から考えたことや意見があれば述べてください。

* ユースや、女性の私たち自身のウェルビーイングを守る身近な問題を、小さなことからでも、問題解決にむけた姿勢をもっていきたい。

* 気候変動の影響が明らかに出ている今の環境を現実的に受け止め、若者たちがその意識をしっかりと活動に移していることを多くの人々がもっと知り理解して大きなうねりとして行政に働きかけなくてはと思います。今の日本の環境に関する法律を変えなくては解決できない問題がたくさんありそうですね。

* 地球温暖化でこれから子ども世代は大変だと漠然と思っていましたが、一原雅子さんのお話から私たちに出来ることがあれば協力しなくてはという想いが強くなりました。

* 「未来へつなげていく」という意識を持つことが大切。

* ユースにとって、この課題は想像以上に重く深刻なものであることを再認識できました。この環境悪化の影響は、脆弱な人々により大きな負荷を与えるということから、ジェンダー平等推進を更に阻むことを意識的に受け止め、女性たち自身が改善に尽力することで、課題の解決とまでいなくても改善を図ることが可能となる筈である。その成果・実績を示すことで、同時にジェンダー平等推進に寄与できるのではないのでしょうか。

* 次世代、とくに多感な時期の子どもたちに、近年の環境の激変について教えることが重要だと思い、環境に対する日本の教育の具体的内容について考えていきたいと考えました。

* 若者世代については、ごくごく一部の意識高い系と大多数の無関心層という実態がわかりました。若者世代のどの層とどのようにつながるか、JAUWとして若者世代に対してできることがあるのか、などととても考えさせられました。ウェルビーイングは全世代に重要ですが、社会的に脆弱なユースやジェンダーには特に重要であることを改めて認識できました。気候変動は全球的な課題ですが、日本のきわめて特殊な背景を考慮した対応を海外の先進事例や国連の動向を参考に考え、脆弱な立場であるユースやジェンダーへの影響をなるべく軽減できるような提言活動を行えるようになれば、と思いました。複雑な要因が様々な階層で絡まっているので大変難しいと思いますが、まずは他人事ではなく自分事として気候変動に対して危機意識を持つところから始める段階だと思いました。

* 国際的な活動でもあり、また国内の若者の気候訴訟の活動もあり、知らないところで様々な活動が長いこと継続されていることに驚き、勇気をもらった。

* 環境問題は様々な要因が重なり、単純に木を植えればいい、工場のシステムを変えればいいという問題ではなく、人類の存在そのものの意義を見つめ直さなければいけないことに気付かされました。解決の糸口を探るためのユースの動きは大変意義深いことだと理解できました。

* 気候変動の悪化は、経済的に発展した国より、多くの発展途上国にしわ寄せが行き、しかも、富裕国が元凶であるという。そして、女性はいくつもの国で犠牲になっているという視点に改めて気づかされました。ウェルビーイングどころか、生存すら脅かされているのではないのでしょうか？

* ウェルビーイングは、教育や心理でよく使われる言葉でしたが、真剣に地球環境を考える時がきています。

6.「ウェルビーイングと環境」について、今後の勉強会で取り上げてほしいテーマや講師として招聘してほしい方があればお書きください。

*環境問題の世界の動きを知りたいと思います。EU と日本の比較なども知りたいです。

*本日お話にでていた日本の気候訴訟のその後の進展について。若者世代の意識や社会に対する関心(特にウェルビーイング、環境面)について。

*大学生の意見を世間に発信できるお手伝い如果可以だと思います